

## パーソナルコーナーで 使った物品を 所定の位置に 片づけるための指導

1

## 指導目標

### 【長期目標】

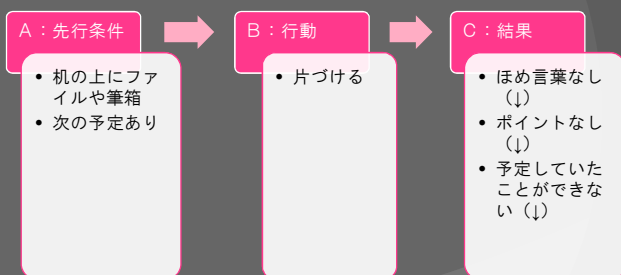
- 学習や遊びに使った物を所定の位置に片づけることができる。

### 【短期目標】

- 学校生活の5場面で、パーソナルコーナー内の6種類の物を所定の位置に片づけることができる。

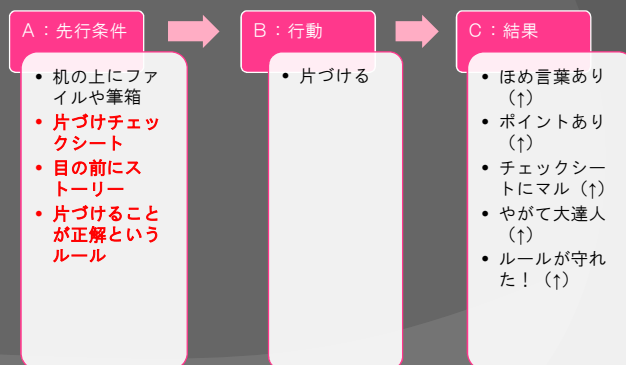
2

## 現状のABC分析



3

## 解決策のABC分析



4

## 方法(1)

### 【対象児】

- E児 小学部2年 男児
- 自閉症
- 太田のStage-IV
- WISCⅢ FIQ78

### 【指導場面】 ※p 6 参照

- 朝の会の後、自立課題の前、自立課題の後、中庭に出る前、帰りの会の後の5場面

### 【般化場面】

- 遊びの部屋でおもちゃの片づけをする。

5

## 方法(2)

- ある日のE児のスケジュール

黄色い数字が  
指導場面

かばん	音楽
水筒おく	ふきんしぼり
着替え	手洗い
お天気シール配る	エプロン
連絡帳	お手伝い②
タオル掛け	ポイントチェック
お手伝い①	給食
ポイントチェック	口ふく
朝の会	エプロン外す
帽子	お手伝い③
マラソン	ワゴン
手洗い	歯みがき
お茶	着替え
操作	ポイント確認
課題 4つ	中庭
先生と勉強	手洗い
課題 4つ	かばん
遊びの部屋	帰りの会

6

## 方法(3)

【教材・環境】※p8参照

- ◎ 片づけに関するソーシャルストーリー
- ◎ 片づける物のチェックシート

スケジュールファイル

ペン

筆箱

お手伝いボード

タイマー

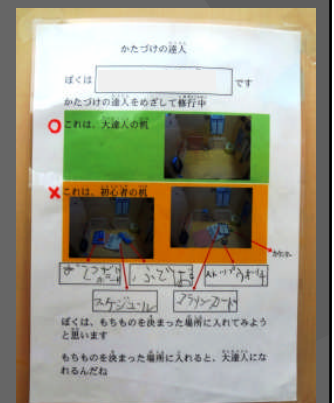
カウンター

7

## 方法(4)



パーソナルコーナー



ソーシャル  
ストーリー

8

## 手続き(1)

【ベースライン】

- ◎ 5場面において、パーソナルコーナーでの対象児の様子を観察する。
- ◎ ソーシャルストーリー、チェックシートなし

9

## 手続き(2)

【指導場面】

- ◎ ソーシャルストーリーを読み、パーソナルコーナーの机の前に貼っておく。
- ◎ スケジュールの文字の横に、片づけをチェックする機会が5回あることを赤い数字を書いて示す。
- ◎ チェックした円の個数により、「大達人」「初心者」の称号を与える。  
30個・・・大達人 1～29個・・・初心者
- ◎ 5回目のチェックの後、指導者と一緒にポイントを確認し、30個達成していたら賞賛する。<sup>10</sup>

## 手続き(3)

【ベースライン】

- ◎ 5場面において、パーソナルコーナーでの対象児の様子を観察する。
- ◎ ソーシャルストーリー、チェックリストなし

11

## 記録方法

- ◎ E児の行動を得点化し、記録をとる。
- ◎ 6種類の物品について、5場面で記録する。
- ◎ 1種類の物品について、5場面全て片づけができれば、5点となる。

12

## 達成基準・中止基準

### 【達成基準】

- 6種類の物品が5点となり、5日間続いたら達成とする。

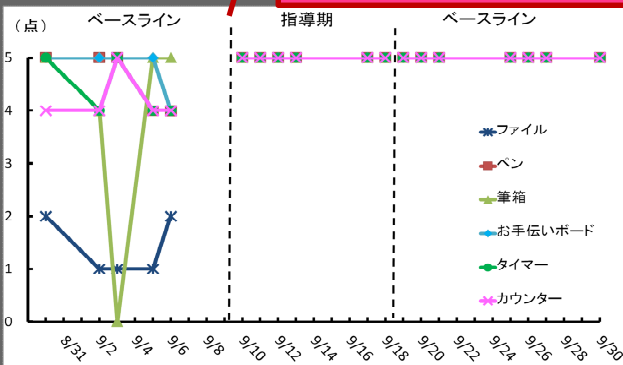
### 【中止基準】

- 3種類以上の物品が4点以下になり、5日間続いたら手立てを再検討する。

13

## 結果(1)

5場面でチェックする。  
それぞれの場面で片づけができれば1点。  
5点満点。



学校の5場面で6種類の物を所定の位置に片づける

14

## 結果(2)

- ソーシャルストーリーとチェックシートを導入すると、6種類の物品の片づけができるようになった。
- 指導者の賞賛が無いときでも、片づけとチェックシートへの記入行動は維持された。
- ソーシャルストーリーとチェックシートをなくしても、片づけ行動は維持された。

15

## 考察

- 「ポイントが貯まる」「太鼓の達人」の称号がもらえる」といった対象児の好子を取り入れることにより、チェックシートに記入する行動が増えたと思われる。
- ポイントが貯まること自体、強力な好子であると考えられる。
- 行動を増やしたいときの手立てとしてソーシャルストーリーやチェックシートは有効である。
- ベースラインに戻しても片づけ行動が維持されたのは、所定の位置に物品が納まっている状態が正解であることが、対象児の中でルール化されたためであると思われる。

16